令和４年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　土砂災害の今と昔　」

岐阜県　白川村立白川郷学園　５年　伊藤（いとう）　千輝（かずき）

近年、大雨に伴う、災害のニュースをよく聞きます。中でも印象的だったのが土砂災害です。一瞬で家を飲み込んでしまう土砂から、どのように命を守ればよいか、まず今の日本を調べてみました。

日本は国土の４分の３が山地で、雨や地震火山が多いため、土砂災害のリスクが高いです。さらに近年、短時間での激しい雨、極端な大雨が増えています。今の日本は、「これまでになかった」災害が、「これまでになかった」場所で起こると言われています。今だからこそできる備えについて、ぼくが住んでいる岐阜県大野郡白川村を例に考えてみました。

白川村は、村の面積の 95 パーセントを山林が占めており、急峻なところが多いのが特徴です。近所の高齢の方に話を聞くと、昭和 23 年７月下旬に大水害が発生し、多くの被害があったそうです。過去には、農業用の水路に小枝や枯れ葉が詰まって裏山が抜け、家に土砂が流入したこともあったと、聞きました。以後、新しく、大きな水路を造ったり、水害を恐れ、山を治めるためのお宮を建てたりしたそうです。この話を聞いて、白川村でも身近に、土砂災害の危険性を感じました。

次に、実際に、ぼくが住んでいる、白川村荻町地区を防災ハザードマップを手に歩いてみました。その中で特に印象を受けたのは、下目洞の奥にある砂防堰堤です。土石流危険渓流の下目洞の砂防堰堤の仕組みを調べてみると、不透過型砂防堰堤のようでした。いくつかある砂防堰堤は上の方から徐々に土石流をせき止め、水の流れを遅くし、一度に大量の土砂が流出するのを防ぐ働きがあるそうです。砂防堰堤の上から、水が勢いよく出ていたので、土砂がたまっていることが分かりました。そんな砂防堰堤のおかげもあり、荻町では、近年、土砂災害が起きていないのだと思いました。

ぼくは砂防堰堤というものさえ知りませんでした。いつも何気なく見ている川も、詳しく見ると、土砂災害に備えた仕組みがあることを知って、とてもおどろきました。また、改めて、白川村は山や谷に囲まれた地形であると理解できました。

さらに実際に経験して分かったこともあります。それは、令和４年８月４日の雷雨です。白川村では、警戒レベル４の避難指示が出されました。でも、ぼくは動けませんでした。理由は、親がいなかったし、備えもできていなかったからです。しかし、ただ雷の音を聞いていても、災害が起こったらどうしようもありません。だから、日頃から備えることが大切だと、強く感じました。

今回の調査を通して、色々な場合を想定して備えることが重要だと思いました。砂防堰堤があっても土砂が流出することもあります。特に近年は、想定以上の災害も多く起きています。土砂災害の危険性を知って、土砂災害に対する意識を高め、早めの避難が大切です。また、事前に防災ハザードマップを使って、家族と避難経路や、避難のタイミング、役わり分担などを確認しておくことも、重要だと思います。さらに、今はアプリなどで、自治体や気象庁などから出る情報が得やすいです。アプリなども上手く活用していく必要があると思いました。ぼくは、これが今だからこそできる備えだと思います。これをまずは家族と話し合い、実践していきたいです。